

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：京都工芸繊維大学（総括責任者：古山 正雄）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

他の工科系大学に比して女子学生比率が高い本学の特殊性を踏まえ、女性研究者や女子学生のキャリアパスやワークライフバランスに配慮するための支援組織として、①女性教職員等が相互に相談できる学内ネットワーク構築、②女子大学との学外ネットワーク活用、③ベビーシッター育児支援拡充、④講演会等の啓発活動充実等を総合的に推進し、女性研究者からの意見等、ニーズをダイレクトかつタイムリーに踏まえつつ、支援の重点化・加速化を図る。

(2) 研究を支援する者の配置計画

担当理事(副学長)をトップとする「KIT男女共同参画推進センター」を設置し、専任コーディネータ1名を配置するとともに、実験補助や育児期間の業務負担軽減等を担う教育研究支援員6名を配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

ワークライフバランスに配慮した様々な研究環境整備、男女共同参画意識の醸成を確実に進め、女性常勤教員や女性研究者のライフイベントを要因とする離職をなくすとともに、女性常勤教員、女性研究者の採用数、在籍数を所期の目標を上回り増加させたことは評価できる。さらに、3名の女性准教授が教授に昇任するなど、女性常勤教員や女性研究者の養成を進める取組も着実な成果を上げており評価できる。

- ・ **目標達成度**：女性常勤教員及び研究者の在籍数、採用数、離職数について、具体的に設定した所期の数値目標を達成したことは評価できる。今後は、上位職階の女性常勤教員のさらなる増加を期待する。
- ・ **取組**：意識啓発の取組に加え、夜間主コースを有するため勤務シフトが不規則となる機関の実状を踏まえた研究支援員の配置、ベビーシッター育児支援等の研究環境整備の取組は実効性の高い取組であり、評価できる。工科系大学としては、女子学生比率が高い機関の特性を活かし、女子大学院生を女性研究者の研究支援員とし、身近なロールモデルを提示したことも次世代育成の取組として評価できる。
- ・ **取組の成果（システム改革）**：女性研究者を取り巻く研究環境の整備により、ライフイベントを要因とする女性常勤教員及び女性研究者の離職をなくす成果が上がっており、また、女性研究

者在籍比率も向上が見られ評価できる。さらに、様々な次世代育成の取組の成果として、大学院博士課程に在籍する女子学生数が継続的に増加しており評価できる。

- **実施体制**：人事委員会委員長である担当理事（副学長）をセンター長とし、理事、事務局長、研究科長、部局教員、事務職員、専任コーディネータ等を構成メンバーとする「KIT 男女共同参画センター」を設置し、全学的な実施体制を構築したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も、全学的な支援システムの下に取組を継続し、大学システム改革と連動させた女性限定教員公募の実施や女性研究者の在籍比率に係る新たな目標値の設定等を行っており、取組の継続性、発展性が期待でき、評価できる。